

第28回全国救急隊員シンポジウム開催プログラム

※消防団体名及び一部団体名については省略して表記しています。

メインテーマ【救急救命の新たなステージに向かって ～都の都・仙台から未来へのメッセージ～】
令和2年1月30日(木)・31日(金) 仙台国際センター会議棟・展示棟

仙台国際センター会議棟 大ホール 第1会場 大ホール：収容人数 1,000人

【開場・受付】 8:30～

9:30～10:10
【開会式】 挨拶：仙台市長・一般財団法人救急復興財団会長
紹介：消防庁・厚生労働省・宮城県・仙台市議会、一般社団法人日本救急医学会、一般社団法人日本臨床救急医学会、全国消防長会、一般財団法人全国市町村振興協会
公益社団法人宮城県医師会、一般社団法人仙台市医師会、東北大学災害科学国際研究所
報告：全国救急隊員シンポジウム運営委員長

基本理念
全国救急隊員シンポジウムは、平成4年度に第1回が仙台市で開催され、先人の意思を受け継ぎながら、新時代救急の質的充実を目指して、ここまで歩みを進めてきました。それから27年の月日が経過しましたが、高齢化の進展などの社会情勢の変化に伴い、救急需要は増加の一途を辿っており、平成20年以降の救急出場件数は、過去最多を更新し続けています。
一方で、甚大な被害をもたらした「東日本大震災」をはじめ、今後発生が危惧される「南海トラフ」などの地震災害、異常気象に伴う「西日本豪雨」などの激甚化する災害への対応、そして「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催などに伴うテロ災害発生への懸念など、救急救命の最前線を司る消防機関を取り巻く環境は新たな局面を迎えています。
このような状況の中、地域住民の安全と安心に大きく寄与する救急救命体制の更なる向上を図るためには、新しい知見を積極的に導入することはもとより、先人からの救急救命技術の伝承や多職種連携、ICTの利活用など、実践的な取り組みが求められています。
本シンポジウムを契機として、全国の救急隊員や救急救命に携わる医療関係者が一丸となり、それぞれの「強み」や「弱み」を相互に補完し合う体制をより強固なものとするともに、新元号「令和」として歩みだす新たな時代の幕開けの時に、再びここの都・仙台から、「救急救命の新たなステージ」に向かって、次世代の救急救命体制を見据えた熱いメッセージを全国に向けて発信します。

Table with columns for time slots (10:20, 11:50, 12:00, 12:30, 12:40, 14:10, 14:20, 15:50, 16:00, 17:30) and rows for sessions (第1会場, 第2会場, 第3会場, 第4会場, 第5会場, 第6会場, 第7会場, 第8会場, 第9会場, 第10会場). Each cell contains session titles, speakers, and topics. Includes a '休息' (rest) section and a '会場設営' (venue setup) section.

展示棟
3階ホール
展示室
一般発表閲覧用パソコン設置
※一般発表ポスター展示はデジタル化し、会場内設置のパソコンから終日閲覧可能
P.C閲覧